

No.	学 校 名	記入日	記入者		1. 人的被害の状況				被害状況	2. 施設設備等の物的被害の状況				施設設備等被害状況記入欄
			職 名	氏 名	死亡者		負傷者			被害なし	軽微な被害	改修が必要な被害	改築が必要な被害	
					教職員	生徒	教職員	生徒						
1	敬愛大学八日市場高校	3/31	教頭		0	0	0	0					①芸術棟一雨モリ。②家庭科棟天井パネル破損。③トイレタイル剥離落下。	
2	成田高校・同付属中学校	3/24	教頭		0	0	0	0			1		3号館(主に中学生使用の校舎)の増築特別教室3室の壁面に亀裂。天井、床面の破損あり。4階水道配管破裂。翌日までに応急修理完了。春季休業中に再点検、修理完了予定。	
3	昭和学院中学・高校	3/24	教頭		0	0	0	0		1				
4	千葉敬愛高校	3/23	教頭		0	0	0	0			1		体育館照明器具、一基落下。旭市在住の生徒一名、津波による家屋損害により居住不可。	
5	千葉経済大学附属高校	3/23	教頭		0	0	0	0		1				
6	市川中学・高校	3/24	副校長		0	0	0	0	地震後、交通機関の不通などにより帰宅できない生徒約300名を講堂に留め置き一泊させた。翌日、復旧した交通機関を利用し、午後までに全生徒を帰宅させた。宿泊生徒名簿のHP告知、帰宅確認も行った。			1	一部の壁などひび割れが生じた程度。今後の教育活動への影響はない。	
7	東葉高校	3/24	校長		0	0	0	0			1		家庭科食物室の食器破損	
8	茂原北陵高校	3/23	教諭		0	0	0	0		1				
9	千葉県安房西高校	3/23	教頭		0	0	0	0		1				
10	文理開成高校	3/28	副校長		0	0	0	0		1				
11	千葉黎明高校	3/25	事務長		0	0	0	0				1	校舎間のエクステンション部分(ジョイント部分)に亀裂。教室等と管理棟との渡り廊下部分に亀裂。事務室の大型の窓ガラスが破損。	
12	和洋国府台女子高校	3/25	事務室長		0	0	0	0				1	部室等ガラス7枚破損	
13	麗澤中学・高校	3/25	事務課長		0	0	0	0		1				
14	千葉英和高校	3/25	教頭		0	0	0	0	生徒・教職員とも屋外へ避難したが、特に負傷者はなし。鉄道が麻痺しているため、バス輸送を行ったが交通渋滞がひどく津田沼駅、船橋駅到着が翌朝になった。			1	コンクリート壁(校舎等)クラック。廊下ガラス8枚、鉄製扉一部破損。校舎接合部(金属板)一部破損。	
15	千葉萌陽高校	3/23	教務部長		0	0	0	0				1	3階の給水器と水道管との接続部分が折れたため漏水。校舎周辺のアスファルトの一部が、2~3cm陥没した。	
16	日出学園中学・高校	3/24	学園業務部		0	0	0	0				1	地面の軽度亀裂により通用門支柱が傾いて閉閉に支障があるが登下校には支障なし。敷箇所程度の地面亀裂あり。	
17	千葉明德高校	3/25	事務長		0	0	0	0				1	校舎内ジョイント部分のパネルの剥がれ。トイレタイルの剥がれ。ポット及びシートの亀裂発生。	

No.	学 校 名	記入日	記入者		1. 人的被害の状況				2. 施設設備等の物的被害の状況					
			職 名	氏 名	死亡者		負傷者		被害状況	被害なし	軽微な被害	改修が必要な被害	改築が必要な被害	施設設備等被害状況記入欄
					教職員	生徒	教職員	生徒						
18	千葉商科大学付属高校	3/24			0	0	0	0					窓ガラスのひび割れ、一部コンクリート片の落下	
19	千葉学芸高校	3/24	事務局長		0	0	0	0			1		校舎外壁のタイルが落下（一部分）。校舎接続部の損壊。校庭舗装の破損	
20	国府台女子学院高等部	3/24	事務長		0	0	0	0			1		〔普通科一審野校舎〕展望室ガラス2枚割れる。柱に亀裂。北側屋上、一部歪みにより隆起剥離。校舎1階通路一部剥離。〔英語科一審越校舎〕校舎入口回り、建物と地面の境に亀裂。校舎裏側外壁一部亀裂。校舎2階廊下ジョイント部に隙間。門扉が脱輪し動かず。	
21	東邦大学付属東邦高校	3/27	教頭		0	0	0	0					第1体育館の天井一部破損。本館天井高架水槽パイプ破損。セミナー館外壁破損。高校棟増築棟接続部一部変更。	
22	敬愛学園高校	3/24	教頭		0	0	0	0		1				
23	専修大学松戸高校	3/29	総務		0	0	0	0		1			校舎内のジョイント部のモルタル等の剥がれ、外壁タイルレンガの剥がれなど	
24	柏 日 休 高 校	3/23	教頭		0	0	0	0			1		壁・床の亀裂等数箇所	
25	日本大学習志野高校	3/25	事務		0	0	0	0			1		図書室の壁が一部破損。体育館の壁部分が亀裂（ひび）。武道場・柔道場の壁面一部欠落。	
26	我孫子二階堂高校	3/24	教頭		0	0	0	0			1		水道管3箇所亀裂。校舎間渡り廊下接続部の歪み。校舎間通路コンクリート亀裂。洗面所鏡破損。教室内壁の剥がれ等。	
27	千葉日本大学第一中学・高校	3/24	教頭		0	0	0	0			1		①高校校舎1階男子トイレ入口壁面、女子トイレ入口壁面の2箇所亀裂（縦40cm位）。②中学校舎4階教室内壁面、1箇所亀裂（横に150cm位）	
28	二松学会大学附属沼南高校	3/24	生徒指導部長		0	0	0	0	本校、学年末考査初日が地震発生日（3月11日—金曜日）となった。大半の生徒は午前中下校となり、数名の生徒も教員により下校指導対応となった。被害の報告はない。		1		校舎内の軽微なひび割れ（数カ所）	
29	中央学院高校	3/30	事務長		0	0	0	0			1		〔被害状況〕把握している限り、3号館・6号館・武道館に複数クラックが発生している。建築会社に確認し、直ちに修復の必要はなしとのこと。〔改修が必要な被害〕・5号館内、体育館ステージ上部にある天井を支える梁が全7ヶ所破断し一部コンクリートが落下。・運動場テニスコートの1/3部分が地盤沈下により使用不能（最大1m前後）	
30	東海大学付属望洋高校	3/31	教頭		0	0	0	0			1		教室等連絡通路。教室（美術室）窓ガラスひび割れ	
31	横 芝 敬 愛 高 校	3/24	教諭		0	0	0	0			1		建築物、多少ひび割れ発生	
32	東海大学付属浦安中学・高校	3/25	副校長		0	0	0	0			1		校舎（建築物）にかかわる大きな被害なし。校舎周辺及び人工芝、グラウンド、野球場防球ネット及び支柱などの影響による被害（地面の隆起と陥没等多数）	
33	拓殖大学紅陵高校	3/29	教頭		0	0	0	0			1		教室、廊下、階段、壁のひび割れ。	
34	不 二 女 子 高 校	3/24	校長		0	0	0	0		1				
35	八千代松陰中学・高校	3/29	事務長		0	0	0	2	額の裂傷（軽傷）、頭部打撲（軽傷）			1	壁のひび割れ。クラック多数。現在業者が改修中（修理見積額—中学・高校合わせて約300万円）	

No.	学 校 名	記入日	記入者		1. 人的被害の状況				2. 施設設備等の物的被害の状況				施設設備等被害状況記入欄	
			職 名	氏 名	死亡者		負傷者		被害状況	被害なし	軽微な被害	改修が必要 な被害		改築が必要 な被害
					教職員	生徒	教職員	生徒						
36	曉星国際中学・高校	3/30	事務室長		0	0	0	0			1		水道管断裂による水漏れ（修理済み）	
37	東京学館高校	3/24	教頭		0	0	0	0				1	①改築が必要な被害一女子トイレ棟（4階建て）が損壊となり、使用不可能。②改修が必要な被害一各棟及び各階のエキスパンションジョイントの破損。	
38	植草学園大学附属高校	3/28	事務長		0	0	0	0				1	図書館の本落下。校舎・体育館亀裂多数。音楽室スピーカー破損。体育館トイレのタイル変形。ガラス8箇所破損。灯籠倒れる。	
39	千葉聖心高校	3/24	教頭		0	0	0	0				1	①本館と東館（増築部）との間に2～4階部かけて亀裂。②教箇所の壁にひび割れ。③校舎外回りタイル等の破損	
40	愛国学園大学附属四街道高校	3/24	教頭		0	0	0	0		1				
41	芝浦工業大学柏中学・高校	4/5	副校長		0	0	0	0			1		校舎内壁の一部にクラック	
42	東京学館浦安高校	3/23	教頭		0	0	0	0				1	①人工芝グラウンドー液状化現象による凹凸状況。②駐車場一約1mの全面地盤沈下と液状化現象。③上下水道（校内一配管・ますの破損。④校舎一全体的な地盤沈下によるすきまが多数ある状況。⑤防球ネットの断裂。⑥照明用支柱（グラウンド）の傾倒。	
43	志学館高校	3/24	教頭		0	0	0	0			1		壁に複数箇所亀裂が生じた。ほとんど表面的なもの	
44	渋谷教育学園幕張中学・高校	3/24	事務長		0	0	0	0				1	①液状化現象による地面の陥没と隆起（学校敷地内全域と一部校舎）②校舎と校舎をつなぐ箇所の破損（エキスパンション）③上下水道管の損傷。	
45	昭和学院秀英中学・高校	3/24	事務長		0	0	0	0				1	※別紙参照	
46	市原中央高校	3/24	教頭		0	0	0	0			1		塗装面（モルタルを含む）の修復4箇所	
47	聖徳大学附属女子中学・高校	3/24	教頭		0	0	0	0				1	①敷地の一部地盤沈下。②外階段の煉瓦破損。③渡り廊下の歪み。④洗面台・非常誘導灯などの曇り。⑤校内の敷力所、特別教室（礼法室・音楽室）の壁・天井に亀裂。	
48	秀明八千代中学・高校	3/25	事務		0	0	0	0				1	体育館5階の天井ボードの部分破壊	
49	流通経済大学付属柏高校	3/25	教頭		0	0	0	0					体育館兼講堂の一部破損。ステージ下り壁のボード数枚剥落。コンクリート柱の端が欠けて落下（手の平大）一修復済	
50	西武台千葉高校・西武台中学校	3/23	事務長		0	0	0	0			1		体育館の外壁パネル1枚落下	
51	東京学館船橋高校	3/24	教頭		0	0	0	0				1	①体育館のライトの取り付け部分がずれた（修理中）。②教室内暖房（旧型・不使用・天井据え付け）の取り付け部分のがたつき（撤去作業中）。	
52	千葉国際中学・高校	3/25	教頭		0	0	0	0		1				

No.	学 校 名	記入日	記入者		1. 人的被害の状況				2. 施設設備等の物的被害の状況				施設設備等被害状況記入欄	
			職 名	氏 名	死亡者		負傷者		被害状況	被害なし	軽微な被害	改修が必要な被害		改築が必要な被害
					教職員	生徒	教職員	生徒						
53	木更津総合高校	3/24	教頭		0	0	0	0		1				
54	桜林高校	3/24	教務部長		0	0	0	0		1				
55	明聖高校	3/23	教頭		0	0	0	0			1		緑区平山町にある総合グラウンドの屋外トイレのブロック壁が倒壊。	
56	わせがく高校	3/24	事務局長		0	0	0	0			1		勝田台学習センター、水戸学習センターでの教室、教員室の大きな混乱。	
57	中山学園高校	3/24	教頭		0	0	0	0		1				
58	あずさ第一高校	4/6	事務長		0	0	0	0				1	校地を囲う壁に剥離や亀裂がある。また、敷地内の一部に地盤の沈降が若干あり、スロープと平坦な面との境に段差が生じたため小規模な改修を要する。	
59	時任学園中等教育学校													
中19	東京学館浦安中学校	3/23	教頭		0	0	0	0				1	①人工芝グラウンド液状化現象による凹凸状況。②駐車場一約1mの全面地盤沈下と液状化現象。③上下水道（校内）配管・ますの破損。④校舎一全体的な地盤沈下によるすきまが多数ある状況。⑤防球ネットの断烈。⑥照明用支柱（グラウンド）の傾倒。	
中06	国府台女子学院中学部	3/23	事務長		0	0	0	0				1	中学部校舎入口前、水道管に亀裂。	
中14	志学館中等部	3/24	教頭		0	0	0	0			1		壁にひびが入りましたが、補修して対応可能です。	
中04	和洋国府台女子中学校	3/25	事務室長		0	0	0	0				1(一部)	屋内プール天井ガラスの2箇所のサッシにズレ。配管の一部破損。	
中07	東邦大学付属東邦中学校	3/27	教頭		0	0	0	0					第1体育館天井一部破損。本館屋上高梁水槽パイプ破損。セミナー館外壁一部破損。高校棟増築部連結部一部変形	
中21	専修大学松戸中学校	3/29	総務		0	0	0	0			1		校舎内のジョイント部のモルタル等の剥がれ。外壁タイルレンガの剥がれ、など	
	合 計													

東北地方太平洋沖地震による被害状況の調査集計

No.	学校名	3. 休校等の状況			休校等の状況	授業再開の予定月日
		普通授業	休 校	そ の 他		
1	敬愛大学八日市場高校				学年末試験の3日目(3月14日)、4日目(3月15日)並びに答案返却の3月18日 休校。3月22日～24日は平常通り。部活動は15時まで。	
2	成田高校・同付属中学校		3月12日～17日		3月12日一学年末考査予定分、3月14日一新入生クラス分けテスト分ともに実施見送り。3月18日と23日・24日の3日間中高登校日とした。3月19日の附属中卒業式実施。3月24日の修了式・退任式実施。 ※成績処理・新学年準備等はすべて完了している。	4月6日、23年度始業式予定
3	昭和学院中学・高校		3月12日～23日		震災直後、生徒の安全確保のため、登校禁止(学校閉鎖)とした。但し、3月17日、24日は中高1、2年生については登校日とし、学年末考査、終業式を実施。3月19日は中3のみ登校。卒業証書授与を担任より実施。	4月7日
4	千葉敬愛高校		3月14日～18日	東電停電による交通機関混乱を見越し、臨時休校措置で対応したが、翌週火曜日(22日)に状況改善を認め再開を決定した。		
5	千葉経済大学附属高校		3月15日～23日	3月24日より春休休業		4月8日
6	市川中学・高校		3月12日～4月6日		連日続く余震、交通機関の乱れ、原発事故による放射能被害、計画停電による混乱などに鑑み、生徒の安全・安心を最優先に考え、今回の措置をとった。	4月7日
7	東葉高校		3月14日～16日		答案返却日を自宅学習に変更した。終業式(3月24日)の開始時間を2時間ほど繰り下げた。	
8	茂原北陵高校		3月14日・15日・17日・18日・23日		午前中以下校、3月16日・22日・24日	4月7日
9	千葉県安房西高校		3月14日～22日のうち5日間	3月17日は期末考査返却、3月23日は終業式	3月14、15、16、18、22日の5日間休校 3月17、23日は学校でバスを借り上げし生徒登校	4月5日
10	文理開成高校		3月15日～16日		3月15日～16日は、全校集会(春休み中の諸注意等伝達)、教室移動、追試、大掃除等が予定されていたが、3月18日に日程をずらして行った。	
11	千葉黎明高校		3月14日～23日		授業の予定がない時期でもあったことから、自宅学習とした。	3月24日
12	和洋国府台女子高校		3月12日～14日		生徒総会中止、教科書販売中止	
13	麗澤中学・高校		3月12日～22日		3月23日 生徒登校日	4月4日
14	千葉英和高校		3月14日～15日、17日、22日	3月16日、18日は年度末、新年度準備業務のため当初より家庭学習日	年度末試験終了日であったため、授業への影響はなかったが、成績処理が遅れ、通知票の発行が遅れた。3月23日の終業式は放送で行った。3月23日終業式実施。	4月7日一始業式実施
15	千葉萌陽高校		3月14日～23日			3月24日
16	日出学園中学・高校	1		卒業式など行事はすべて延期とし、3月21日まで生徒は自宅学習とした。		
17	千葉明德高校		3月14日～18日		3月11日は学年末考査最終日であったため授業への影響はなかった。	

No.	学 校 名	3. 休校等の状況				
		普通授業	休 校	そ の 他	休校等の状況	授業再開の予定月日
18	千葉商科大学付属高校		3月14日～18日-生徒のみ		教職員については、3月14日～18日登校が可能なのは10時始業で勤務する。	3月19日-終業式
19	千葉学芸高校				3月14日-臨時休校。3月15日～18日-自宅学習（登校可能者は登校、登校が難しい者は自宅で学習し後日報告書を提出する。）	3月22日
20	国府台女子学院高等部		3月14日～17日		当初予定3月15日、17日は自宅学習日のため、実質休校は3月14日・16日の2日間。	
21	東邦大学付属東邦高校		3月12日～14日		3月12日（土）学年末考査5日目最終日-臨時休業。3月14日（月）学年末考査5日目の延期を中止して臨時休業。3月24日（木）終業式は放送で実施。	4月6日-始業式
22	敬愛学園高校		3月18日～24日		家庭学習を指示。写真撮影、教科書販売、実力テスト、終業式、赤点者補習等で実質の授業はなかった。	4月7日-始業式
23	専修大学松戸高校		3月14日～19日		期末終了後のため、自宅研修やスポーツディ等の行事を中止したが授業への影響はなし。23日は終了式を経て春休みとなる。	4月5日より登校、予定通り
24	柏 日 休 高 校		3月15日～16日		答案返却日を2日間休校にしたのみ	
25	日本大学習志野高校		3月14日～15日		地震及び計画停電等による交通機関の乱れを考慮し、左記2日間を休校とした。16日～18日は家庭学習のため生徒は登校せず。	通常通り開始予定。
26	我孫子二階堂高校		3月14日～22日		3月14日（月）期末試験最終日、中止。3月16日（水）生徒答案返却日、中止。3月22日（火）終業式、中止。	4月8日
27	千葉日本大学第一中学・高校		3月14日		地震は期末試験最終日であり、午前中で試験は終了していました。そのため、3月14日以外は授業がなく、影響はこの1日だけでした。	4月6日
28	二松学舎大学附属沼南高校		3月12日～25日		学年末考査（2日目～4日目）は中止とする。生徒は家庭学習とする。「緊急お知らせメール」により連絡を入れる。3月26日（土）修了式においては、（出席可能な生徒）と連絡済である。	3月26日-修了式
29	中央学院高校		3月14日～16日			
30	東海大学付属望洋高校		3月12日～21日		14日（日）から8日（金）：計画停電の伴うJR運休のため休校措置をとる。（部活動中止）3月17日（木）予定の修了式については22日（日）に実施。	4月4日
31	横 芝 敬 愛 高 校		3月14日～17日		JR東日本総武線（千葉・銚子間）運休により、大部分の生徒が登校不能であるので臨時休校とした。	3月18日再開
32	東海大学付属浦安中学・高校		3月14日～18日（中等部、NZ英語研修 中止-3月14日～27日予定）		3月14日～17日まで特別授業（5限）を予定していたが全て中止。3月18日 終業式、離任式→3月31日に延期、保護者懇談会は中止。	
33	拓殖大学紅陵高校		3月14日・15日、3月22日・23日			
34	不 二 女 子 高 校			地震による休校はしていません。修了式-3月22日（火）実施		
35	八千代松陰中学・高校		3月14日～24日（全校休校日）		3月25日（金）高校2年登校日、3月27日（日）高校1年登校日、3月26日（土）中学生登校日-ともに通知表配付、教科書購入、他	4月8日

No.	学 校 名	3. 休校等の状況			休校等の状況	授業再開の予定月日
		普通授業	休 校	そ の 他		
36	曉 星 国 際 中 学 ・ 高 校			3月12日～19日	休校とはせず、保護者の判断による自主登校（通学生）。良性（感染者）も同様→授業は実施せず。合同授業、課題も出している自習等で対応。	4月7日（授業は4月8日～）
37	東 京 学 館 高 校		3月12日～24日		3月12日より24日まで、部活動を含むすべての活動を中止とした。また、休業中の校内合宿等の行事も中止とした。	4月6日
38	植 草 学 園 大 学 附 属 高 校		3月14日～16日		公共交通機関が運休のため	
39	千 葉 聖 心 高 校		3月14日～15日		3月14日は、生徒が通学に利用している交通機関のほとんどが不通であることが、早期の時点でわかったため、生徒の各家庭に電話にて休校であることを連絡した。出勤可能な職員で、校内の片付けを行い、交通機関の回復状況から、3月15日も休校とした。	3月16日
40	愛 国 学 園 大 学 附 属 四 街 道 高 校		3月14日		休校は14日のみ。交通事情により休校とした。2学年は修学旅行中だったため15日より1学年のみ無理のない範囲で登校させた。	
41	芝 浦 工 業 大 学 柏 中 学 ・ 高 校		3月12日～23日		法人の指示の下、一般生徒は3月23日まで自宅待機。中3生に関しては、3月23日（水）に予定通り卒業式を実施。	
42	東 京 学 館 浦 安 高 校		3月23日～24日		3月14日（月）から22日（火）までは本来、自宅学習であった。3月23日は教科書販売日であったが延期とし、24日の卒業式は中止とし休校とした。	4月6日が始業式。ただし、復旧工事等の進捗状況で予定変更もありうる。
43	志 学 館 高 校		3月14日～23日	本校の卒業式（3月15日）とその練習・答案返却など	生徒は自宅学習とする	3月24日（修了式実施）
44	渋 谷 教 育 学 園 幕 張 中 学 ・ 高 校		3月12日～4月5日		校舎及び校庭の補修が生じたので上記機関を臨時休校とした。	4月8日
45	昭 和 学 院 秀 英 中 学 ・ 高 校		3月12日～24日		①3月12日（土）・14日（月）期末考査一途中で中止、休校。②3月15日（火）全校自宅学習、追再考査→中止、休校。③3月16日（水）・17日（木）特別時間割授業→中止、休校。④3月18日（金）・19日（土）全校自宅学習。⑤3月22日（火）中1、中2、高校自宅学習、中3登校日→中止、休校。3月23日（水）中1、中2、高校自宅学習、中3修了式→中止、ただし中3及び外部高入生は教科書購入のため登校。⑦3月24日（木）終業式・修了式→中止、ただし高1、高2は教科書購入のため登校。	4月5日
46	市 原 中 央 高 校		3月12日～24日		予定行事を中止し、終業式を1日延期し25日に実施。	4月8日
47	聖 徳 大 学 附 属 女 子 中 学 ・ 高 校		3月14日～19日		4月5日まで原則、登校禁止とする。	4月6日
48	秀 明 八 千 代 中 学 ・ 高 校		3月14日～18日			4月7日
49	流 通 経 済 大 学 付 属 柏 高 校		3月12日～22日	諸行事	答案返却日（3月12日～16日、実質4日）、講演会、大掃除など3月17日・18日、修了式 3月22日	4月6日（始業式）～
50	西 武 台 千 葉 高 校 ・ 西 武 台 中 学 校		3月14日～24日			4月8日
51	東 京 学 館 船 橋 高 校		3月14日～24日		上記の8日間のうち、地震による休校は実質3日間。	4月8日
52	千 葉 国 際 中 学 ・ 高 校		3月14日～15日		内房線（千葉⇄木更津）運休の場合→休校。平常スクールバス 学校⇄君津駅、今回 学校⇄木更津駅 JRの運行状況で判断。	

No.	学 校 名	3. 休校等の状況				授業再開の予定月日
		普通授業	休 校	そ の 他	休校等の状況	
53	木更津総合高校		3月14日～24日		計画停電実施に伴い、公共交通機関が混乱し、学校のトイレもオール電化により停電中は使用不可。部活動は17時までには完全下校とし、保護者の了解のもと実施。	3月25日-終業式
54	桜 林 高 校			3月14日(月)～23日(水)の7日間は自宅学習期間のため生徒の登校はなかった。		
55	明 聖 高 校				3月11日(金)が修了式だったため休校なし。	
56	わ せ が く 高 校		3月14日	3月18日(金)まで生徒の登校を伴う指導を行わない。	3月15日(火)～4月6日(水)年度末始休暇	4月7日
57	中 山 学 園 高 校		3月16日～18日	ロングホームルーム3月16日、修了式3月18日		4月7日
58	あ ず さ 第 一 高 校		3月14日～18日 ※以降4月14日まで春季休校		交通機関途絶のため、年度末・年度始め休業と重なり、長期の休校となった。	4月15日
59	時 任 学 園 中 等 教 育 学 校					
中19	東 京 学 館 浦 安 中 学 校		3月14日～24日	3月14日から23日まで授業日であったが、臨時休業とした。24日は終業式の予定であるが、中止とし休校とした。	4月6日が始業式。ただし、変更して延期等もありうる。	
中06	国 府 台 女 子 学 院 中 学 部		3月14日～17日	当初予定 3月14日は中1、中2は自宅学習日		
中14	志 学 館 中 等 部		3月14日～23日		3月12日予定の卒業証書授与式を3月24日に実施。3月24日は修了式も実施。	4月7日
中04	和 洋 国 府 台 女 子 中 学 校		3月14日		送別会の中止	
中07	東 邦 大 学 付 属 東 邦 中 学 校		3月12日～14日		3月15日～19日は学期末(学年末)の生徒自宅学習期間としている。3月22日-中3生徒のみ登校 卒業式。3月23日-中1・中2生徒登校 終業式	4月6日-始業式
中21	専 修 大 学 松 戸 中 学 校		3月14日～19日		期末終了後のため自宅研修やスポーツディ等の行事を中止したが授業への影響はなし。23日に終業式・卒業式を実施。その後 春休み開始	4月5日より登校、予定通り
	合 計					

東北地方太平洋沖地震による被害状況の調査集計

No.	学校名	4. 学事計画への影響について	5. 授業や新年度を始めるにあたって公共交通機関や計画停電の影響について	6. 部活動の活動に関する影響について	7. その他
1	敬愛大学八日市場高校	特になし		休校期間中の活動自粛。	
2	成田高校・同付属中学校	学年末考査や新優勢クラス分けテストを打ち切ったが成績処理や新元準備は順調に消化している。ほとんど影響なく、4月6日に始業式予定。	比較的、成田は計画停電が実施されず（今まで一度も実施されていない。）、やや交通の影響あるも休校の対応はせず済みそうです。	平日、春季休業中、午後4時完全終了、下校を原則として実施の予定。	
3	昭和学院中学・高校	学年末の計画については中止及び大幅な変更により対応した。新年度については、計画通り実施予定。但し、状況により日程・時程・方法などの変更もあり得る。	在校生については混乱もなく進められると思うが、新入生については学校生活に慣れるまでの間、混乱が予想される。	全国選抜大会（新体操、ハンドボール、ソフトテニス）は中止。震災直後、3月12日から23日の間、学校閉鎖として全ての活動を禁止した。3月24日以降は制限（最終下校時間5時）を設け活動再開。	
4	千葉敬愛高校	答案指導並びに特別指導に影響及び単位認定及び進級認定作業が事実上滞った。	現段階で不透明であり見通しが立ちません。	南の方のJRなどは、午後7時以降運転見合わせの箇所が多く、基本的に4時に部活動終了の目処とした。	
5	千葉経済大学附属高校	終業式実施せず、その他大きな影響なし	通学範囲が広く多方面からの通学者を考えると影響大である。計画停電については何とか対応したいと考えている。	3月15日～23日まで停止。24日以降は校内に限り実施。	
6	市川中学・高校	休校に伴い以下の教育活動を中止した。①学年末考査(1日分)②中学校卒業式③終業式④高校1年、N2語学研修。他。尚、通知票等の必要書類は各家庭に郵送した。	①バス通学者へのバス運行は現段階では不明。②計画停電については、工夫して教育活動を遂行したい。	今月中のクラブ活動は中止。4月以降は、公式戦出場クラブの活動を中心に段階的に開始したい。	左記5による多大な影響が懸念される。対応には1校だけでは判断が難しい部分もある。文科省、県教委などの指針が出る場合は、速やかにご連絡をいただきたい。また、他校の情報も共有させていただきたい。
7	東葉高校	4月9日から予定していた1年宿泊研修(2泊3日・箱根町)を中止した。	状況をみながら、その都度最善策を選択実施する。		
8	茂原北陵高校	特にありません	交通機関運休の場合は休校にせざるをえない。停電の場合は、教室の照明や情報のコンピュータ等に影響が出る。また、水道、トイレの使用に問題が出る。	登下校の交通機関、体育館の照明に影響が出る。	夏季の冷房使用に問題が発生すると思われる。
9	千葉県安房西高校	電車通学が約半数であり、授業実施への対応が危ぶまれる。宿泊研修が予定されているが、実施可能かどうか不明である。	授業日によっては影響が大である。朝夕の通勤、通学の時間帯は電車の運行について配慮願いたい。	練習時間等が不適になるが、公式大会には公共交通機関の運行の可否により多大な影響がある。	本校は交通不便地であり、授業時間数の確保等の方策を考えなければならないかと心配している。
10	文理開成高校	3月18日に年度終了式を行った。次年度は予定の日程で行う。	公共交通機関や計画停電の影響で対応せざるを得ない。	学校内での活動においては影響は少ないと思うが、対外的な活動においては、公共交通機関や計画停電の影響があれば、活動に支障があると思う。	
11	千葉黎明高校	現時点では大きな影響はないが、県外での宿泊研修(4月上旬)については、校内研修に変更した。	現時点では大きな影響はないものとする。	休校期間について(3月14日～23日)は、部活動は禁止した。3月24日以降は、通常活動とし、県外での活動については、個別に許可制とした。	
12	和洋国府台女子高校	修了式を1日早めに実施。	現在、情報を集め検討中	安全を配慮し計画通り実施	
13	麗澤中学・高校	特になし	生徒の登下校、教職員の通勤への影響を懸念する。	特になし	
14	千葉英和高校	3月18日実施予定であった新入学予定者への説明会を中止。3月19日、22日の特進コース、英語科への転科試験を中止。	現時点では4月7日(木)始業式、8日(金)入学式は実施予定。公共交通機関の運行状況や計画停電がどうなるのかが、いまひとつ明確でない。どう対応するか検討中である。	春休み中の部活動について、通常通りの活動を解禁。(県外への遠征、合宿等は自粛)。3月11日以降16日までは全ての部活動を禁止。3月17日～23日(終業式)までは限定的な活動を許可。	
15	千葉南陽高校	①学年末試験は終了したので、成績評価、単位修得認定等に、大きな影響はなかった。②学年末行事として予定していた、外部講師を招いての進路ガイダンスは中止した。③新一年入学前説明会は、交通事情により一週間延期した。(22日→29日)	①公共交通機関の運行状況が、ある程度定めれば予定通り始められる見込みである。②被災地のため現在のところは計画停電を免れているので、その影響は少ないが変更になると影響は大きい。	・休校に付き、部活動は休止	
16	日出学園中学・高校	修了式・卒業式ともに3月24日に延期。中高修学旅行は中止(学年ごとの小旅行実施予定)。	京成、JRが24日現在の運行状況であれば影響なし。計画停電中は、新学期になってからトイレが使用不可になるため対策検討が必要。	当分の間、15:30部活終了、16:00完全下校とし、暗くなる前に帰宅するように対応する。	
17	千葉明德高校	入学予定者説明会及び実力テストを中止した。	特になし	特になし	

No.	学 校 名	4. 学事計画への影響について	5. 授業や新年度を始めるにあたって公共交通機関や計画停電の影響について	6. 部活動の活動に関する影響について	7. その他
18	千葉商科大学付属高校	平成23年4月に予定していた新入生全宿講習(福島県)を中止した。	公共交通機関がストップした場合は、授業することは不可能。計画停電が実施された場合、PCを使用しての授業が不可能。そのための授業については、協議検討を要する。	3月24日まで部活動禁止。3月24日以降については、24日に状況を見て検討。	
19	千葉学芸高校	3月24日一修了式は予定どおり実施	多大な影響が予測される。	3月中の練習試合、ゴルフ全国大会は中止である。	
20	国府台女子学院高等部	現在、予定通り行う予定だが、30日の会議で検討予定	現在、予定通り行う予定だが、30日の会議で検討予定	春休み中が大会のある部以外は練習中止。	
21	東邦大学付属東邦高校	なし	なし	春季休業中の合宿・遠征・他校との試合等禁止。	
22	敬愛学園高校	現在のところ なし	外房線・内房線等一公遅・公欠扱い。停電一4月以降授業に大きな影響、苦慮している。	特になし。休校中は校長の許可制で特別な部活のみ徹底した生徒把握のうえ実施。	
23	専修大学松戸高校	3月16日の追認審査を21日に変更。4月20日～22日の合宿ホームルームを中止。	なし	なし	
24	柏日体高校	特になし	影響なし	登下校に支障のある者を除いて活動	
25	日本大学習志野高校	なし	なし	3月22日～4月7日は部活動禁止。やむを得ず部活を実施する場合は保護者の許可を得てから学校へ申請し活動する。	
26	我孫子二階堂高校	新入生登校日については、3月中の登校日を中止とし、4月5日のみとした。	本校は「我孫子」にあるため、茨城県より常磐線の他、東武野田線、武蔵野線、成田線等で通学する生徒がほとんどである。通勤・通学の時間帯は90%以上の運行が望まれる。	部活動は3月31日まで活動中止。ただし、野球部に関しては、公式試合があるため、3月29日(火)より許可。	
27	千葉日本大学第一中学・高校	中学卒業式(3月19日)は予定していた体育館での全校生徒参加による挙行を変更し、多目的ホールにおいて卒業生・保護者・教職員のみで行いました。修了式(3月22日)は、体育館に集合させることをせず放送によって行いました。		すべての部活動を3月11日より中止しています。	
28	二松学園大学附属沼南高校	新年度、行事予定。(中学校)森の教室【福島県】。(高等学校)入学式後オリエンテーション【九十九里】について震災との関係により、再検討いたします。	今後の状況において、順次対応と考えております。	現在、安全面を考慮して全活動中止となっております。今後は、3月26日(土)一修了式の登校、様子で判断する予定。	新年度、現在予定どおりの日程となっております。
29	中央学院高校	特になし	特になし	特になし	特になし
30	東海大学付属望洋高校	特になし。	計画停電に伴うJR運行の状況を確認し判断する。	春季休業期間(3月23日～4月3日)においては、宿泊を伴う遠征・合宿等を全て自粛する。部活動の参加にあつては居住地域からの交通事業等が異なるため、無理して参加をせず、部活動顧問との相談の上で参加する。	
31	横芝敬愛高校	特にありません。	特にありません。	特にありません。	
32	東海大学付属浦安中学・高校	行事・式典の見直し(簡素化及び中止等)	節電対策を含み検討中。	(3月11日～断水)全ての部活動の練習、合宿、遠征中止。自宅待機。大幅な影響あり(～3月23日まで中止)	
33	拓殖大学紅陵高校	3月14日(月)・15日(火)の答案返却、3月16日(水)新入生実力試験、3月22日(火)カルチャー講座(1年対象)の中止。3月23日(水)終了式を3月24日(木)に延期。	計画停電によりパソコンが使用不可となり成績処理に影響があった。	3月中の県外遠征については全て取り止めた。部活動中止の日を設けたり、早めに終了することにしている。	
34	不二女子高校		計画停電中の授業が心配です。	屋外で活動する部活は、放射能の影響を懸念しています。	
35	八千代松陵中学・高校	4月15日・16日に予定していた中学1年、三浦一泊研修は中止。4月15日・16日に予定していた高校1年、鴨川一泊研修は中止。4月16日に予定していた高校2、3年、校外学習(横浜、他)は中止。(いずれも海岸付近のため中止)4月7日の入学式、計画停電の時間帯を避けて行い予定(未定)	授業は計画停電を避けてできるだけ行う予定。計画停電中はトイレ、水道等が使用できないため、授業やクラブ活動を行いことは難しい。(現在、検討中)	クラブ活動は計画停電の時間帯を避けて、3月30日(水)より再開する予定。	

No.	学校名	4. 学事計画への影響について	5. 授業や新年度を始めるにあたって公共交通機関や計画停電の影響について	6. 部活動の活動に関する影響について	7. その他
36	暁星国際中学・高校	現状では計画通り実施の方向。	公共交通機関一原則としては通常通り運営する方針。但し、遅刻・欠席等は弾力的に対応。計画停電一状況に応じて対応。	3月中のクラブ活動（寮での合宿）は原則自粛。	
37	東京学館高校	新生説明会を3月17日（木）から3月27日（日）に延期した。	公共交通機関の対応によっては（不通等）臨時休校等が必要となる場合もあり、検討を重ねている。停電については、本校は区域からはずされており、現状であれば問題にならない。	節電に対応し、校内での合宿等を中止した。休業中の部活動に制約が生じている。	特になし
38	植草学園大学附属高校	終業式の変更。3月24日を3月30日とする。	とても心配である。	当面は校内での活動とする。（練習試合等自粛）	
39	千葉聖心高校	学年末の成績処理と新年度の準備関係の日程に若干の変更は生じたが、大きな支障は今のところない。	交通機関は、ほとんど問題のない状態に運行が再開された。計画停電については、今までのところ実際に停電していないが、授業時間帯に行われた場合、情報の授業は実施できない。	交通機関が現在の程度の運行状況であれば特に問題はない。	
40	愛国学園大学附属四街道高校	なし	なし	なし	
41	芝浦工業大学柏中学・高校	①中1から高2の学年末テスト最終日（各学年2科目）の実施中止（3月12日）。②解答会（答案返却日）：3月16日、17日の実施中止。③高校新入生招集日（3月12日）の中止。	本校への通学交通機関である東武野田線の一部列車に運休が生じている。	地域（市）によって、対外試合が中止された。	4月5日（日）現在、一度も計画停電の対象となっていない。
42	東京学館浦安高校	3月16日（水）予定の新生説明会を3月29日（火）、会場を変更して実施する予定。3月24日（木）の終業式は中止。23年度の始業式・入学式は予定通りとしたが、復旧工事の関係で変更が考えられる。	公共交通機関一京葉線の運行状況によって臨時休業もありうる。計画停電一当然授業の妨げになるので、絶対にやってもらいたくない。	学校や地域の上下水道が復旧するまで、十分な活動は困難と思われる。現在、時間制限や活動場所の確保など一定の条件のもとに活動している。	
43	志学館高校	大きな影響なし	現時点で未定。状況を見て判断していく。	登下校の安全を確保した上で時間を制限し3月24日から再開	
44	渋谷教育学園幕張中学・高校	今のところ大きな変更は考えておりません。	京葉線・武蔵野線・総武線は間引き運転の影響が心配です。また、計画停電も上記交通機関への影響があるものと考えます。	期末試験最終日に被災したため、それ以降は部活動は行われていません。4月6日の登校日まで部活は原則禁止です。	
45	昭和学院秀英中学・高校	極力、例年同様の計画で実施するよう努力したい。ただし、別紙被害状況にあるように、実施できないものも出る可能性はある。	本校の生徒のほとんどはJR総武線・京葉線・京成線を利用しているので、これらの運行状況に大きく影響を受ける。計画停電は3時間程度であれば対応していきたい。	今後の余震の状況、交通機関の運行状況によっては影響を受ける。また、本校のグラウンド及びコートは修復状況によって、屋外での活動部活は影響がある。	
46	市原中央高校	定期考査最終日を中止、新入生行事（2回）は計画停電・JRの状況を見て、土曜日及び計画停電が夜間の日に実施した。（19日、24日）	本校はほぼ全員がスクールバス利用のため、計画停電が大きく影響する。バスは出入車を含め計画停電時間外に運行させるので今後の計画の推移を見て決定したい。	3月中はすべて活動中止。4月は4日からJR五井駅との最短路線のみ運行予定である。	
47	聖徳大学附属女子中学・高校	①3月12日、新入生登校日→3月19日（土）、20日（日）、4月5日（火）の3回に延期。②3月19日、終了式一中止一斉メール配信し、校長メッセージを伝える。③3月14日～19日までの休校に伴い、この期間のすべての行事を中止した。	現在、京成バスが休日ダイヤで運行中で、このままであれば影響あり。計画停電については現在影響なし。	3月27日（日）まで活動中止。3月28日より許可された部活動のみ活動する。	
48	秀明八千代中学・高校	臨時休業→3月14日～18日。新入生一日入学（3月25日）の中止	家庭科・情報の授業に影響あり。		
49	流通経済大学付属柏高校	体育館の安全確認に時間を要するため、4月7日（木）の入学式の会場を流通経大新松戸キャンパス講堂（JR新松戸駅前）で行いに変更した。	本講の場合、東武野田線、JR常磐線に影響が生じた場合、平常に授業を行いは困難になる。また、つくばエクスプレス線を利用している生徒もいるので、電車の運行状況に左右されるのが心配である。計画停電の時間帯にも当然、支障が出る。	本校では3月31日まで部活動と生徒の登校を自粛している。4月1日以降は解除する予定であるが、電車・計画停電・原発事故などの影響が心配である。	部活動について、学事課から連絡文書が届いた（3月23日付け）ので、活動するか否かの判断の参考にしている。
50	西武台千葉高校・西武台中学校	高1、2学年末考査の未実施分の次年度実施	東武野田線の運行状況は、かなり影響が予想される。計画停電は問題なし。	東武野田線の運行状況が影響	
51	東京学館船橋高校	新生説明会・修了式の中止	現在のところ平常通り実施の予定	体育館使用不可（3月中の予定）のため練習ができない。	
52	千葉国際中学・高校	定期テスト後だったため、大きな影響はなし。	当然、それらの状況をみながら臨機に対応。	当然である。全てその時の状況次第に対応。	

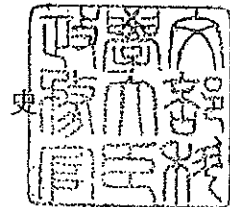
No.	学校名	4. 学事計画への影響について	5. 授業や新年度を始めるにあたって公共交通機関や計画停電の影響について	6. 部活動の活動に関する影響について	7. その他
53	木更津総合高校	学年末試験の答案返却ができず、3月25日の終業式に実施。新入生実力試験日の変更(3月22日→3月24日)。競歩大会の中止(3月18日)。4月上旬は新入生オリエンテーション。入学式の実施が出来るか心配している。また、4月11日からの授業の実施ができるか不安である。教科書販売も未実施。	久留里線、内房線の利用者が多く運休されると壊滅。スクールバス、鴨川や茂原方面から運行しているが運行が消灯されると運行に危険を伴う。学校内のすべてのトイレの水が停電によりストップしてしまう。	ソフトテニス、ソフトボール、剣道、柔道、卓球、空手の6つの部が全国選抜大会出場を決めていたが、すべて中止となった。停電により室内競技の練習ができない。	寮生活をしている生徒に対し食事作りに影響している。遠方から通勤・通学している教職員・生徒は計画停電が重なることがあり登校できないケースがある。自家用車で通勤する職員は、停電中、信号の消灯があると危険である。計画停電の実施は、学校だけの判断では対応できない。統一指導が必要だと考える。本校のように全校生徒1700名を越えると各家庭への連絡も不徹底となってしまう。春休み(3月26日～4月7日)は何とか過ごせるが、問題は4月8日(始業式)以後がどうなるかである。
54	桜林高校			生徒の安全管理・確保のため、3月中の部活動は一切停止とした。4月1日の会議でそれ以降のことは決定する。	
55	明聖高校	現時点では特に影響はないが、計画停電が長期化した場合には検討が必要となる。	本校は千葉駅徒歩圏であるので今週程度の状況で公共交通機関が機能していれば問題はない。また、現在は計画停電の対象からはずれている。	特になし。今夕は公共交通機関の運休等が多かったので14日～17日まで中止した。また、緑区の総合グラウンドまではマイクロバスでの送迎であるため給油の問題も要因である。	
56	わせがく高校	今後の状況が不透明であるが、少なからず影響が予測される。情報等一部授業が実施できない。	4月以降の状況が不透明であり、対策が講じられない。計画停電への支障が懸念される。停電により電話が不通になる。	部活動により活動方法、活動時間への制限があるものと思われる。	
57	中山学園高校	特になし	交通機関の状況により判断	特になし	入学式の会場に予定していた船橋市民ホールが舞台損傷のため使用不可となり、会場を変更した。
58	あずさ第一高校	入学式の日程調整(柏市民文化会館の点検工事による)	現時点では影響は少ないが、今後の状況に応じる。	特になし	
59	時任学園中等教育学校				
中19	東京学館浦安中学校	3月18日に予定していた第1学年保護者会の中止。3月24日に予定していた終業式の中止。なお4月6日の始業式以降の予定については、現在ではなんとも言えない。	悪法の場合、学校及び市の上下水道の被害が大きく、この復旧を待たないと学校生活自体の再開が難しい。公共交通機関についてはJR京葉線の運行状況により休業もありうる。計画停電については、当然授業の妨げとなるのであってはならないと考える。	左記の理由により、かなり制限された状況であり、時間・活動場所の確保など一定の条件のもとに一部の部が活動している。	
中06	国府台女子学院中学部	現在、予定通り行う予定だが、30日の会議で検討予定	現在、予定通り行う予定だが、30日の会議で検討予定。	春休み中は大会のある部以外は練習中止	
中14	志学館中等部	教育課程は終了済。球技大会や教育講演会(外部講師の実施を延期)。	通学圏が房総半島全域にわたっており、JRの運行状況が与える影響はとて大きいです。	当分の間、練習を控える。	
中04	和洋国府台女子中学校	卒業式の延期にて実施(3月16日より19日に)	情報を集め検討中	安全を配慮し、時間短縮で実施	
中07	東邦大学付属東邦中学校	22日卒業式予行→卒業生・教員のみによる卒業式(会場も変更)。23日卒業式→1、2年生対象の終業式(放送による)	新年度は当初の計画通り開始の予定。4月6日—始業式。4月7日—入学式	春休み中の活動は9:00から15:00に限るとした。	
中21	専修大学松戸中学校	3月15日スポーツデイ、17日保護者会、22日ミニ文化祭を中止。19日卒業式を23日に変更開催。平成23年度の4月9日～11日オリエンテーション合宿を中止。	なし	なし	
	合計				



23文科施第40号
平成23年4月11日

東北電力管内及び東京電力管内に所在する
各都県教育委員会
各都県知事
各国公私立大学長
各公立大学法人の長
公立大学を設置する各地方公共団体の長
文部科学大臣所轄各学校法人理事長
放送大学学園理事長
大学を設置する各学校設置会社の代表取締役
構造改革特別区域第12条第1項の認定を受けた地方公共団体の長
各国公私立高等専門学校長
各文部科学省独立行政法人の長
各大学共同利用機関法人の長
公立学校共済組合理事長
日本私立学校振興・共済事業団理事長
文部科学省所管関係各特例民法法人の長

文部科学大臣政務官
笠 浩 史



(印影印刷)

夏期の電力需給対策の骨格について

東日本大震災で被災された方々に心からお見舞い申し上げますとともに、各機関の多大なご尽力に御礼を申し上げます。

東日本大震災により、東北電力及び東京電力管内の電力供給力が大幅に減少し、この夏には電力不足が深刻化すると考えられています。このため、政府の電力需給緊急対策本部において夏期の電力供給不足に伴う計画停電の実施を回避すべく、別紙のとおり「夏期の電力需給対策の骨格」が取りまとめられました。

政府においては、今後、本骨格を踏まえ、電力需給緊急対策本部及び同幹事会において、需給対策の部門ごとの対応の在り方、具体的な内容を検討し、4月末日途で、全体としての実効ある政策パッケージを取りまとめることとしています。

については、各機関におかれましては、本骨格を踏まえ、電力需要がピークを迎える7月から9月に向け、最大使用電力を抑制するための実施体制の整備や計画の策定などに係る取組について早期に着手いただくようよろしくお願いします。

なお、政府において上記の政策パッケージが取りまとめられた際には、改めてその内容をお伝えすることとしています。

都県教育委員会及び都県知事においては、このことを域内の市区町村教育委員会又は所轄の私立学校等に対して周知してください。

【問い合わせ先】

文部科学省大臣官房文教施設企画部

参事官（技術担当）付

03-5253-4111（内線 2319）

夏期の電力需給対策の骨格

平成23年4月8日
電力需給緊急対策本部

はじめに

未曾有の大震災により、東京・東北電力管内の供給力は大幅に減少。これによって生じた需給ギャップに対処するため、やむを得ない緊急措置として計画停電を実施。これまでのところ、両電力管内の需要家の方の節電への取組もあり、「大規模停電」を回避。

しかし、今後、一旦は改善する見込みの需給は、夏に向けて再び悪化。これに対し、需給両面の抜本対策を講じなければ、計画停電とその下での弊害から脱却できない。このままでは、国民生活やとりわけ国の活力の源である産業活動が疲弊し、震災からの復興と日本経済の再出発は望めない。

このため、官民一体となった創意工夫によって、この難局から脱するべく、以下のような認識とそれを踏まえた対策をどう取り進めるかについて、両電力管内の国民各層や産業界の理解と叡知を集める協力をお願いしたい。

1. 今夏の電力需給の見通し

(1) 東京電力の今夏の需給バランス

・東京電力の供給力は、震災直後に約3,100万kWまで低下した後、3月末には3,600万kW程度まで回復。今後、発電所の追加的な復旧及び定期検査からの復帰等により供給力は徐々に増加。現時点では、需要のピークを迎える夏までには、4,500万kW前後の供給力を見込む。

(注)揚水は、需給バランス悪化により、夜間の汲み上げが不十分になるおそれがあり、供給力に含まず。
また、日々の供給力は、他社との融通や天候により変動がありうる。

・今夏のピーク時需要は、節電意識の浸透等により減少が見込まれるものの、現時点では、最大ピークとして約5,500万kWを想定。(昨年夏は、気温が著しく高かったこともあり、最大ピークは約6,000万kW)

・この先当分の間、計画停電が発動される可能性は低くなっているが、夏には需給ギャップは再び拡大。現時点での需給見通しでは、最大ピーク時に1,000万kW程度、昨年並みのピーク(約6,000万kW)を想定した場合には1,500万kW程度の供給力不足の恐れ。

(2)東北電力の今夏の需給バランス

・東北電力の供給力は、震災直後に約900万kWまで低下した後、3月末には1,100万kW程度まで回復。今後、長期計画停止火力の復帰等を行い、現時点では、夏までに1,150万kW前後の供給力を見込む。

・今夏のピーク時需要は、震災の影響や節電意識の浸透等により減少が見込まれるものの、現時点では、1,300~1,380万kWを想定。(気温が著しく高かった昨年並みを想定すると、最大ピークは約1,480万kW)

・東北電力管内では、当面、計画停電が実際に発動される可能性は低いが、震災からの復興と冷房需要の増大等により、夏の需給ギャップが顕在化。現時点での需給見通しでは、最大ピーク時に、150~230万kW程度、昨年並みの猛暑を想定したピーク(約1,480万kW)の場合は約330万kWの供給力不足の恐れ。

2. 今夏の需給対策の基本的考え方

(1)計画停電からの脱却とその狙い

・計画停電は、震災により大幅な需給ギャップが生じた中で、不測の大規模停電を生じさせないために、やむを得ない緊急措置として採用。

・国民・産業界の節電への取組もあり、需給バランスは改善。需給が緩和していく中で、今後とも節電への取組が維持・強化される前提で、計画停電の「実施が原則」の状態から、「不実施が原則」の状態へ移行する。これは、原則として常に通電されている状態への転換を意味する。

・一方、夏には、需給ギャップが大きく拡大。これに対し、計画停電の「不実施が原則」の状態を維持するため、供給力の積み増しに向けたあらゆる手段を講ずるとともに、事業活動のあり方やライフスタイルにも踏み込んだ抜本的な需要抑制対策を講ずることが必要。

・その際、予めピーク時間帯の使用最大電力(kW)の抑制幅を示し、需要家が、作業時間のシフトや休暇の長期化・分散などに創意工夫をこらして計画的に取り組むことにより、消費者や、とりわけ国の活力の源であり、また復興の基盤でもある企業の生産・操業に極力支障のでないような仕組みを考えることが肝要。

(注)計画停電は、需給両面の対策で需給ギャップの解消ができなかった場合の、セーフティネットと位置付ける

(2) 対策が必要な需給ギャップの量

・東京・東北電力管内においては、現時点での需給見通しによれば、1,000万kW程度(東京)、150~230万kW程度(東北)の需給ギャップが存在。さらに、昨年並みの猛暑を想定した場合には、1,500万kW程度(東京)、330万kW程度(東北)のギャップとなる。

・したがって、現時点では、最大で、東京で1,500万kW程度、東北で330万kW程度のギャップを解消することを目標として、需給両面の対策を検討することとする。

・一方、需給ギャップの見通しは、今後の供給力の確保状況、需要見通しによって変化。したがって、需給見通しと必要対策量を随時見直し、需要抑制による国民・経済活動への負担が過剰なものとならないよう適切に情報提供することとする。

(注)特に需要見通しは、復興の状況、天候、節電意識等に左右され、今後の推移を見守る必要。

(注)電気事業法に基づく報告徴収を東京・東北両電力会社に命令し、需給見通しを提出させることとする。

(3) 国民の参加

・供給側が一方的に需給ギャップを調整する計画停電に頼るのではなく、国民・産業界等すべての需要側が、一層の創意工夫を行うことで対処するという、国民参加の運動としていくことを目指す。

3. 供給面の対策

(1) 今夏に向けた短期的な対策

東京電力管内で500万kW程度、東北電力管内で50万kW程度の供給力の積み増しを目指す。

・火力発電所(共同火力を含む)の復旧・立ち上げ
被災状況を確認し、復旧可能性を追求。

・緊急設置電源(ガスタービン等)の新設

系統余力の上限まであらゆる種類の緊急設置電源の導入を目指す。このため、今般の震災により失われた電気供給力を補うための火力発電設備の設置について、災害復旧事業として位置付けられたものは環境影響評価法の適用除外となることを確認するなど各種環境整備に努める。

・自家用発電設備(自家発)の活用

管内の自家発設備を対象に調査を実施し、新規の調達先を含めて電力による買取の確実化を図る一方で、自家発設置者に対して、売電を要請。

- ・揚水発電の活用

(2) 今夏以降に向けた対策

- ・火力発電所(共同火力、IPPを含む)の復旧・立ち上げ

今夏までに立ち上がらなかった火力について、被災状況を確認し、早期の復旧可能性を追求。

- ・火力発電所等の新設・増設

現在建設中の火力発電所の運転開始の前倒しを目指す。

- ・緊急設置電源(ガスタービン等)の新設

海外からも含めた据え置き型ガスタービンの更なる設置を追求。

- ・地域間連系線の増強

既設FCの増容量の早期実現と更なる増強提言の具現化を図る。また、更なる地域間連系線増強に関する中期的なマスタープランを策定。

- ・再生可能エネルギー(太陽光、風力、地熱等)の導入促進

- ・分散型電源の導入促進

- ・関連の研究技術開発の促進

4. 需要面の対策

- ・東京電力管内で、少なくとも1,000万kW以上、東北電力管内で280万kW以上の需要抑制を図ることを目標とする。(供給面の対策と併せ、需給ギャップを十分に解消できる量として想定。)

- ・大口需要家、小口需要家、家庭の部門毎に、抑制可能性も加味して需要抑制の目安となる目標を設定し、以下のとおり、4月末の成案とりまとめまでに、需要家が多様な措置の組み合わせ等によりこれを達成する方策を官民あげて検討し、最終的に目標数値を決定することとする。

・使用最大電力(kW)を抑制することを基本とする。

・抑制目標は、東京電力、東北電力管内それぞれの需給状況に応じて設定することとなるが、現時点では、両者において抑制すべき需要量が総需要量に占める割合はほぼ同じであり、共通の目標を設定することとする。

(1)大口需要家(契約電力500kW以上) 【25%程度抑制】

・個別の需要家(事業所)(注)は、ピーク期間・時間帯(例えば、7～9月(平日)の10時～21時)の最大使用電力を25%抑制するための具体的取組と、営業時間の短縮・シフト、夏期休業の設定・延長・分散化等のライフスタイルの変革につながる取組について計画を策定し実施。

(注)需要家には政府及び地方公共団体を含む。以下同じ。

・需要抑制の実効性及び需要家間の公平性を担保するため、電気事業法第27条を活用。その際、事業活動の実態を勘案し、同業・異業の複数事業者が共同して需要抑制を行うことも可能とするスキームの導入を検討。

(2)小口需要家(契約電力500kW未満の事業者) 【20%程度抑制】

・個別の需要家(事業所)は、ピーク期間・時間帯における最大使用電力の20%抑制に貢献するため、具体的目標を設定するとともに、空調・照明機器の節電、営業時間の短縮・シフト、夏期休業の設定・延長・分散化等をするための具体的取組について自主的な計画を策定し、公表。所管省庁は、計画の策定、公表を促す。

・政府は、目標達成のためのメニュー例(空調、照明、OA 機器等の節電)を提示するなど、これを支援するとともに、計画を策定した需要家が節電行動を分かりやすく表示するよう促す。また、節電に積極的な需要家の取組を一覧できるサイトを立ち上げ、その取組を国民に広く示す。

・所管省庁・業界団体・自治体等を通じて個別の需要家の取組を強力に進めるとともに、適切な情報提供や巡回節電指導を行うことで、国民運動を展開。

(3)家庭・個人 【15～20%程度抑制】

・節電に向けた気運を高め、家庭に対してもピーク期間・時間帯における最大使用電力の15～20%抑制を目標に、国民運動を積極的に展開。地方自治体、業界団体や学校とも幅広く連携。

➢ メディア、地方自治体、業界団体、学校等のあらゆるルートを通じ、家庭で

の節電意識の徹底を図る。

- ▶ 「どのような行動をとればどの程度節電ができるのか」(例：冷房を2℃高くすると、●kW の節電に貢献)といった分かりやすさに配慮しつつ、国民向けの対策メニュー例を提示。

・節電を促す制度的手法についても検討。

・日々の電力需給データの「見える化」を徹底することで、消費者・事業者の節電意識を一層高める。既に電力会社及び省庁ホームページで掲示されているところ、テレビ放送・公共交通機関の画面表示等においても掲示されるよう働きかける。

・ピーク期間・時間帯に配慮した大型イベントの開催・放送を促すとともに、学校等における節電教育の実施を促し、家庭・個人の電力消費の抑制を進める。

5. 国民の叡知の結集

・「節電」への社会的関心がかつてないほどの高まりを見せる中、例えばポータルサイトを活用して国民から「節電」のアイデアを広く募集するなど、積極的に国民の意見を募集し、国民運動につなげる。

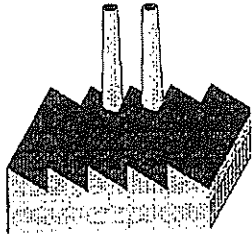
6. 今後のスケジュール

・今後、本骨格(案)を踏まえ、電力需給緊急対策本部及び同幹事会において、需給対策の部門毎の対応のあり方、具体的な内容を検討。

・4月末日途で、電力需給緊急対策本部で、全体としての実効ある政策パッケージを取りまとめる。

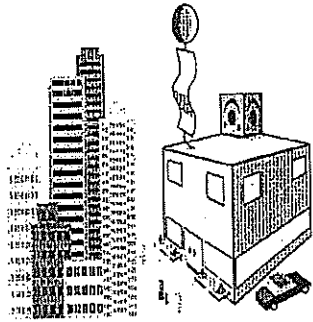
夏期節電対策の具体例

大口/小口需要家



産業分野
(製造業他)

- ・生産プロセスの一層の合理化、設備運用の最適化
- ・省エネ設備の導入
- ・節水の推進
- ・操業時間/日の短縮、シフト
- ・夏期休業の設定・長期化・分散化 他



業務分野
(オフィスビル、商業施設、飲食店、ホテル、学校他)

- ・空調温度の引き上げ(目安温度の設定)
- ・照明の削減(窓際での消灯、ネオンの消灯など)
- ・空調時の換気量調整(今より少なく)
- ・建物の遮熱性向上(窓に遮熱フィルム、ブラインド他)
- ・パソコン、プリンター等のOA機器の使用削減等
- ・省エネ設備の導入
- ・節水の推進
- ・営業時間/日の短縮、シフト
- ・夏期休業の設定・長期化・分散化
- ・節電ビズ(クールビズの一層の強化) 他

家庭



- ・空調温度の引き上げ(目安温度の設定)
- ・扇風機の利用(エアコンの代わりに扇風機を)
- ・照明の消灯(昼間は使わない)
- ・家屋の遮熱性向上(すだれやカーテンの利用を)
- ・待機電力の削減(使わない家電はコンセントを抜く)
- ・省エネ家電製品の導入(白熱電球からLED・電球型蛍光灯など)
- ・節水の推進
- ・家族はなるべく一部屋で団らんを
- ・電力需要ピーク期の家族旅行 他

夏期の電力需給対策について

平成23年4月8日
電力需給緊急対策本部

(東京・東北電力管内の電力不足を需給両面の抜本対策で乗り越える。)

- 未曾有の大震災により、東京電力・東北電力管内の供給力が大幅に減少。計画停電導入のやむなきに至り、国民生活や産業活動に大きな影響。
- 夏の更なる需給逼迫を、政府・電力会社・国民各層が一体となった需給両面の抜本対策で乗り越えていく必要。

(計画停電の「実施が原則」から「不実施が原則」へ)

- 国民各層の節電努力が実を結び、今春の需給バランスは改善。計画停電の「実施が原則」の状態から、「不実施が原則」の状態へ移行する。これは、原則として常に通電されている状態への移行を意味する。

(夏場に向けた取組み — 需要家が、必要な生産活動等を確保できるよう、より計画的に対応しやすい仕組みへ)

- しかし、夏には需給ギャップが大きく拡大。これに対し、計画停電の「不実施が原則」の状態を維持するため、供給力を積み増すとともに、東京電力・東北電力管内の国民各層と、心を一つに抜本的な需要の抑制に取り組んでいきたい。
- その際、予めピーク時間帯の使用最大電力(kW)の抑制幅をお示しし、需要家の方々が、作業時間のシフトや休業日程の長期化・分散化などに創意工夫をこらして計画的に取り組んでいただくことにより、消費者や、とりわけ国の活力の源であり、また復興の基盤でもある企業の生産・作業に極力支障のないような仕組みを考えることが肝要。

(需給対策パッケージのイメージ)

- 具体的には、東京電力管内で最大1500万kW程度と見込まれる需給ギャップに対し、500万kW程度の供給力の上積みと、1000万kW以上の需要抑制を目指す。
- 同様に、東北電力管内で最大330万kW程度と見込まれる需給ギャップに対し、50万kW程度の供給力の上積みと280万kW以上の需要抑制を目指す。
- このため、ピーク時間帯(例えば、7月～9月の10～21時)に、最大使用時の電力(kW)を、大口需要家には25%程度、小口需要家には20%程度、家庭・個人には15～20%程度の引き下げを目安として設定し、制度的手法も含め、これを達成できるような方策を検討していきたい(4月末の取りまとめに際しては、最終的な目標数値を決定する。)

注:需要家には政府及び地方公共団体を含む。

- 大口・小口の需要家については、具体的な取組みについて計画を策定し実施することとし、特に大口需要家については、その実効性・公平性を担保するため、電気事業法第27条を活用する。
- 東京電力・東北電力管内の節電を国民運動として進めていきたい。特に、従来の取組に加え、例年より夏休みの日数を増やしたり、休みが重ならないようにするなど、社会全体で取り組むことで効果が大きくなるような取組も重要。
- こうした取組について、十分な情報を提供し、計画的に需給ギャップの解消に取り組めるようにする。政府も節電を自らの問題として、国民の皆さんとともに取り組んでいきたい。
- 国民各層の創意工夫を結集し、4月末を目処に政府としての実効ある政策パッケージをとりまとめることとしたい。

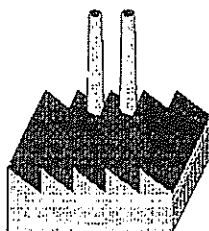
(万一のときのための対策)

- 計画停電は万一のときのセーフティネットへ。
- 万一の発動時にも貴重な人命が損なわれることのないよう、①医療機関、在宅の人工呼吸器使用者等の電力の確保、②熱中症対策等に最大限取り組む。

夏期節電の主要な取組例

大口・小口需要家

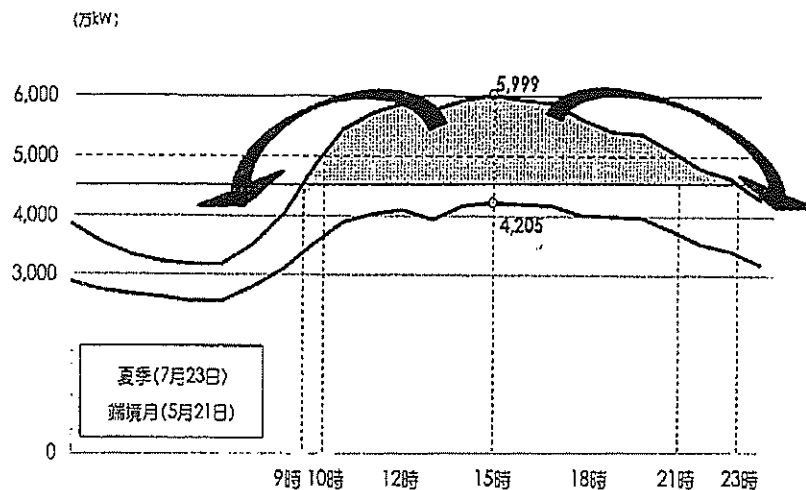
産業分野
(製造業他)



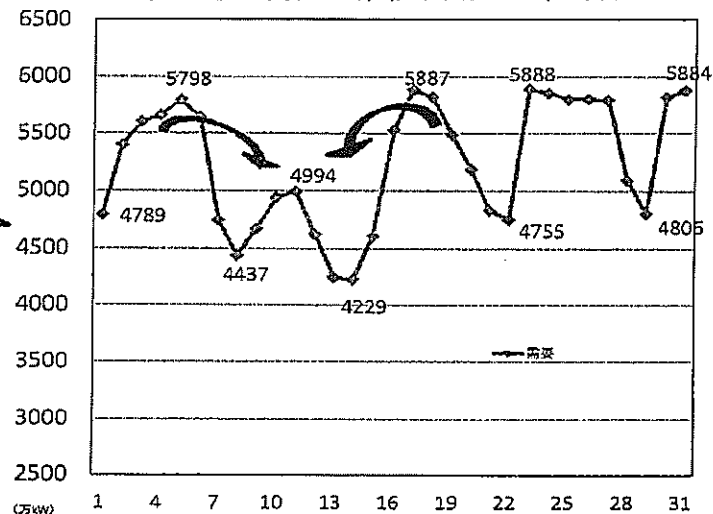
- 工場などの操業時間を短くしたり、早朝・深夜にずらす。
- 休業日を関係者間で互いに重ならないように分散して設定する。
- 夏休みの日数を増やすとともに、関係者間で互いに重ならないように分散して設定する。

→ 政府は、取組例を示すなど十分な情報提供を行うことなどを通じて、事業者をサポートする。

昨年の夏季・端境期の最大需要日における供給パターン



東京電力 需要の推移(平成22年8月)



夏期節電の主要な取組例

大口・小口需要家

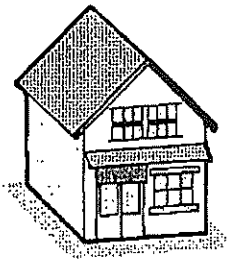
業務分野

(政府、地方公共団体、
オフィスビル、商業施設、
飲食店、ホテル、学校他)



- 空調の設定温度を1℃引き上げることにより、ビル全体の消費電力の概ね3～4%を削減する。
- 照明の間引き、ネオンの消灯等により照明を半減し、ビル全体の消費電力の概ね5%を削減する。

家庭



- 空調の設定温度を1℃引き上げることにより、家庭の消費電力の概ね3～5%を削減する。
- 使わない家電はコンセントを抜くことにより、家庭の消費電力の概ね1～2%を削減する。

(注)数値はいずれも試算値

計画停電による国民生活への影響への対応

○計画停電による国民生活への悪影響を緩和するため、可能な限り対応。

○これまでの対応の主要事例

1. 鉄道

- ・変電所の運用や鉄道のダイヤ編成等の工夫により、電力消費の抑制を図りつつ、計画停電に伴う運行の混乱を改善。

2. 医療

- ・医療機関等について、緊急かつ直接的に人命に関わることを考慮し、変電所の運用改善等によって停電による影響をできる限り緩和。
- ・自家発電施設を保有していない医療機関に対して、自治体からの情報や個別 問い合わせ等を考慮し、東京電力が電源車を派遣。
- ・在宅で人工呼吸器を使用している患者に対しては、厚生労働省が主治医、 訪問看護ステーション等に注意喚起。 また、国立病院機構等に患者の緊急 相談窓口を設置。

館開催
会日
私学
会開
日
12月3日
兵庫県私学
で

日私
教研が
震災時
対応で
中間報
告会

東日本
大震災
被災校
報告、
パネル
など

財団法人日本私学教育 催す。この事業は、文 策に役立ててもらふこと
研究所は十二月三日、午 部科学省の公募に応募し が目的。また、地域の学
前十時から神戸市の兵庫 採択された調査研究事業 校としての役割や公立学
県私学会館を会場に、 で、東日本大震災時の私 校との比較分析も行う。
「震災時における学校対 立小・中・高校の対応を 中間報告会では、東日
応の在り方に関する調査 調査、今後の私立学校の 本大震災の被災校三校が
研究」の中間報告会を開 地震・津波災害等への対 当時の模様や現状等を報

告するほか、調査研究事
業の中間報告、東日本大
震災の被災校関係者に平
成七年に発生した阪神・
淡路大震災を経験した兵
庫県の私立高校関係者が
加わったパネルディスカ
ッションが開かれる。
そのほか会場では阪神
・淡路大震災の特別展示
も行われる。
募集人員は百人、私立
・公立学校関係者が対
象。参加費は千円。詳細
は財団法人日本私学教育
研究所研究係へ(電話0
3-3222-1162
1)、申し込みはFAX
(03-3222-116
83)か郵送で。

私立校、被災の実態調査

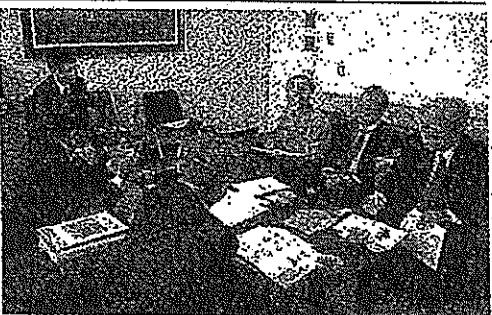
誘導、避難所対応なども

学研 本育 日教

東日本大震災によつて、甚大な被害を受けた

公立学校や、避難所となつたその際は情報として伝わるものの、私立学校については実情はあまり伝わっていない。私立の学校施設の被害状況などを集約した資料を、存在しないといわれる。だが、震災時には公立学校同様、周辺住民を含め、被災住民が避難所として活用していることから、文科科学省の委嘱を受け、私立学校を対象にした「震災時における学校対応の在り方に関する調査研究」(財団法人私立教育研究所)が始まった。

12月3日には、その中間報告を阪神・淡路大震災を経験した兵庫県私立



直接学校を訪問して、学校関係者からヒアリングする調査メンバー(水城高校で)

「阪神・淡路大震災では、発生後、2年間にわたり、震災対応として施設が活用された私立学校があったことも知られていない。今回の震災時の

約900校に発送した。

直接学校を訪問して、学校関係者からヒアリングする調査メンバー(水城高校で) 対応もその後の被害状況も十分に把握できず、阪神・淡路以後、震災対応の必要性を研究会などで話し合ってきたが、災害への準備の必要調査研究のまとめ役となつている同研究所の山路進・主任研究員は話。

調査研究では、アンケート調査を実施。私立学校の被害状況などの把握のため、東北6県に加え、北海道、関東各県の対象

震災による物的被害状況から、被災生徒・教職員の状態、3月11日当日の教育活動から避難誘導、保護者との連絡、避難所としての使用状況、学校再開に向けての対応、今後の災害が起きた時の対応、原発事故の影響の有無など、広範囲に聞き、分析していく。 一方で、20~30校程度をめぐりに直接、学校訪問しての聞き取り調査なども併用する。東北6県以外にも足を運ぶ。例えは、茨城県。私立水城高校(水

戸市)への訪問調査によつて震災当日の激震で、一部の校舎が立ち入り禁止になり、今では建物もなぐ更地の状態にある学校があることも分かった。今回の調査は、被災の全貌や今後の対応の仕方なども明らかになることが期待され、「情報を集約し、今後の私立の運営に役立つよう共有していきたい」と(山路・主任研究員)と言った。

中間報告会には、参加申し込み受け付け中。(D.O 3.33222.1.621)